

平成27年度

さいたま市図書館評価 報告書
(平成26年度事業対象)

平成27年11月

さいたま市立中央図書館

目 次

1	評価の目的と経緯	1
2	評価の方法	2
3	評価の結果	3
4	さいたま市図書館評価票（平成26年度）	
	【目標】①図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	7
	【目標】②幅広く計画的な資料の収集・保存	8
	【目標】③地域の歴史と文化の保存	9
	【目標】④ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	10
	【目標】⑤文化事業の開催	11
	【目標】⑥あらゆる世代に向けたサービスの充実	12
	【目標】⑦レファレンスサービスの充実	13
	【目標】⑧地域の課題解決	14
	【目標】⑨生活支援サービスの展開	15
	【目標】⑩バリアフリーサービスの充実	16
	【目標】⑪多文化サービスの充実	17
	【目標】⑫子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	18
	【目標】⑬図書館評価と市民意識の反映	19
	【目標】⑭市民との協働	20
	【目標】⑮関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	21
	【目標】⑯地域の特色を生かした運営	22
	【目標】⑰職員の資質・能力の向上	23
	【目標】⑱施設・設備の充実	24
	【目標】⑲持続的で安定した図書館の運営	25
	【目標】⑳危機管理体制の強化	26

参考資料

図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準	27
さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項	28
さいたま市図書館ビジョン	33

1 評価の目的と経緯

(1) 評価の目的

各年度の図書館サービス、その他図書館の運営状況について、目標及び事業の達成状況の点検・評価を行い、図書館サービスの向上を図るとともに、評価の結果を積極的に公表します。

(2) 評価の経緯

図書館法第7条の3において、「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、市町村立図書館はサービスの「達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない」とされています。

平成 21 年度	図書館評価について検討を開始
平成 22 年度	平成 21 年度の実績について評価を試行
平成 23 年度	平成 22 年度の実績について評価を実施
平成 24 年度	平成 23 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」を制定 平成 25 年 3 月に策定した「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針のうち 16 項目を評価の目標として指標及び目標値を設定
平成 25 年度	平成 24 年度の実績について評価を実施 平成 26 年度の評価目標として指標及び目標値を設定 (「さいたま市図書館ビジョン」の基本方針のうち 20 項目)
平成 26 年度	平成 25 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館ビジョン」に基づく平成 27 年度の取組について評価の指標及び目標値を設定 (「さいたま市図書館ビジョン」の基本方針すべてに対応した 22 項目)

平成 27 年度 平成 26 年度の実績について評価を実施
「さいたま市図書館ビジョン」に基づく平成 28 年度
の取組について評価の指標及び目標値を検討中

2 評価の方法

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」に基づき、毎年度、図書館の運営状況について評価を行います。

評価にあたっては、目標ごとに指標及び目標値を定め、達成状況について評価を行います。

評価の結果をホームページ等を活用して市民に公表します。また、この結果に基づき図書館運営の改善に努めます。

(1) 評価の流れ

評価に用いる指標を設定



各指標の目標値を設定



(事業実施)



目標値と照らして、指標となった取組の達成状況により評価



評価結果の報告と公表

(2) 指標・目標値の設定

さいたま市図書館では、平成 25 年 3 月に策定した「さいたま市図書館ビジョン」に基づき、年度ごとにサービス目標を設定し、事業に取り組んでいます。(p 33~参照)

平成 26 年度の事業を対象とする評価は、サービス目標のなかから、20 項目を評価の目標としてとりあげました。目標の達成度合いを測るため、一部の重複を含み、52 の指標と目標値を設定しています。

(3) 評価基準

評価を行うにあたり、各取組を明確に評価できるよう、以下の評価基準を定めています。

ア) 指標の評価基準

指標の評価は、目標値に比べて対象となった事業の達成状況を、目標達成率として a～d の 4 段階で、指標ごとに評価するものです。また、a～d の各段階に対応した評点を与えます。

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の 100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の 80%以上 100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の 50%以上 80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の 50%未満	0

イ) 目標の評価基準

各目標に設定された指標の評点の平均点により、A～D の 4 段階で総合評価を行います。

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7 以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0 以上 2.7 未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0 以上 2.0 未満
D	目標を達成できなかった	1.0 未満

3 評価の結果

(1) 評価結果の一覧

平成 26 年度の評価結果は、次の表のとおりです。

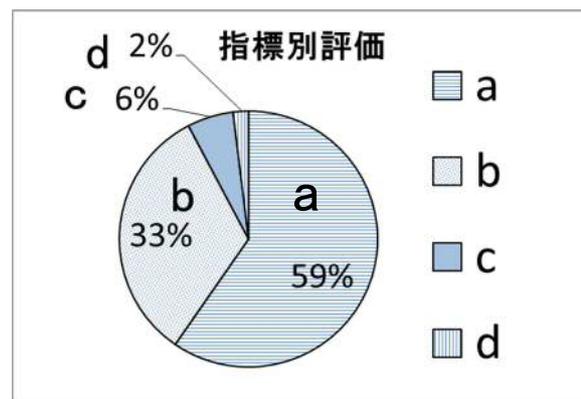
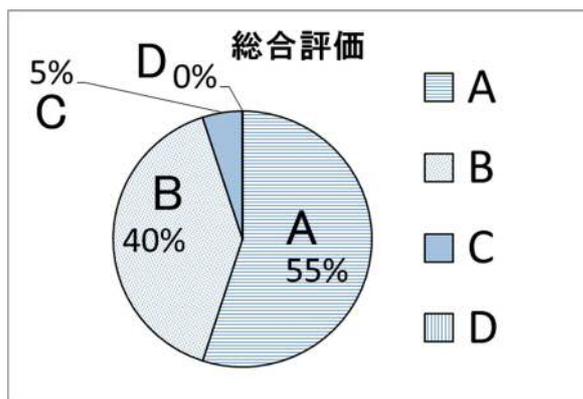
平成 26 年度評価結果

目 標		評価	指 標
知的 好奇心に 応える 図書館	1	図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	B 新規登録者数=c 貸出総数=b 来館者数=b 貸出利用人数=b 市民一人当たり貸出数=b メールマガジン配信件数=a
	2	幅広く計画的な資料の収集・保存	B 資料回転率=b 雑誌タイトル数=b 新聞タイトル数=a 所蔵タイトル数(図書)=a 蔵書冊数(市民一人当たり)=b 寄贈資料受入点数=b
	3	地域の歴史と文化の保存	C 地域・行政資料の蔵書数=b 地域資料のデジタル化の調査・研究成果の報告=d
	4	ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実	B ホームページアクセス数=a インターネット延利用人数=b
	5	文化事業の開催	B 講座等の実施回数=b 映画会開催回数=c 展示会の開催回数=a
生きる 力を 支える 図書館	6	あらゆる世代に向けたサービスの充実	A テーマ資料展示の実施回数=a 各世代向けの本の紹介資料作成=a
	7	レファレンスサービスの充実	A レファレンス受付件数=a レファレンス事例の公開件数(年間)=a パスファインダー(調べ方案内)作成数=a 職員レファレンス研修の開催回数=a
	8	地域の課題解決	A 行政支援サービスの実施=a
	9	生活支援サービスの展開	A 日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供への取組=a
	10	バリアフリーサービスの充実	B 音訳資料・点訳資料貸出数=b 対面朗読回数、時間数=b 宅配サービスの貸出数=a
	11	多文化サービスの充実	A 外国語資料の受入点数=a
	12	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	A 小学生の不読者の割合=c 中学生の不読者の割合=a 子ども向け行事開催数=a 読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施=a 子ども向けの資料案内の作成=a 学校訪問・招待の実施回数、参加人数=a
市民 とともに 歩む 図書館	13	図書館評価と市民意識の反映	A 図書館評価の実施と公表=a アンケートによる満足度調査の実施と公表=a
	14	市民との協働	B ボランティアとの協働事業数、延実施回数=b
	15	関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携	B 相互貸借点数(県内・県外)=b 連携事業実施機関数、延実施回数=a 職場体験の受入件数=a
	16	地域の特色を生かした運営	A 地域の特色に関連した資料を活用した情報発信=a
誰もが 安心して 使える 図書館	17	職員の資質・能力の向上	B 内部研修の実施回数(図書館で行われる研修全て・市主催の研修は外部とする)=b 外部研修の参加件数(図書館外の全て・市主催の研修を含む)=b
	18	施設・設備の充実	A 施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進=a (仮)浦和美園図書館の開館準備=a
	19	持続的で安定した図書館の運営	A 業務マニュアルの整備・見直し=a 図書館の管理運営における民間力活用の検討=a 新たな財源確保や経費削減の取組=a
	20	危機管理体制の強化	A 職員の危機管理意識を高める取組=a

評価基準別にみると、以下のとおりとなります。

評価基準	A	B	C	D	合計
総合評価	11	8	1	0	20

評価基準	a	b	c	d	合計
指標別評価	31	17	3	1	52



(2) 評価

「目標を達成できた」と「ほぼ達成できた」を合わせると、総合評価で95%、指標別評価で92%達成することができました。

「さいたま市図書館ビジョン」で掲げる4つの目標ごとに達成状況を見ると、「知的好奇心に応える図書館」では、総合評価でBが4つ、Cが1つとなっています。特に、【目標】①の指標である貸出総数については、平成22年度の約1,124万点をピークとして平成26年度は約989万点と減少しています。減少の要因には、タブレット端末やスマートフォンなどの普及により、紙媒体の書籍を利用する機会が減っていることも影響していると考えられます。

さいたま市図書館では、こうした環境の変化に対応して、電子書籍貸出サービスやデジタル化資料の提供など、ICTを活用した情報提供に取り組むとともに、多様な市民ニーズに応えられるよう、書籍・雑誌・新聞など紙媒体の資料についても引き続き充実を図っていく必要があります。

「生きる力を支える図書館」は、『子どもといっしょに読書タイムキャンペーン』など、読書の楽しみ方を伝えるさまざまな取組を行った結果、Aが6つ、Bが1つと、高い達成状況となりました。

「市民とともに歩む図書館」は、Aが2つ、Bが2つという達成状況となっています。なお、【目標】⑭の指標「ボランティアとの協働事業数、延実施回数」、【目標】⑮の指標「相互貸借点数（県内・県外）」については、おおむね目標値を達成したと言えます。

「誰もが安心して使える図書館」は、Aが3つ、Bが1つで、目標を達成することができました。

4 意見聴取

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」第4条に基づき、平成27年度第1回図書館協議会（7月9日開催）において、評価票（平成26年度）の報告及び意見聴取を行いました。8月9日までの意見聴取期間を含めて、協議会委員より寄せられた意見は次のとおりです。

- ・貸出総数などの推移をみると減少傾向にあるが、各館別の数値分析も必要ではないか。減少の原因等について評価や考え方を聞きたい。また、実績を伸ばす方策についても記述が必要かと思う。
- ・ホームページアクセス数が年々増大しており、数値目標で管理するのが妥当かどうか。定性的な目標の方が適しているのではないか。
- ・小学校の不読率について、一部の学校の集計であることなど、誤解のないようにしてほしい。また、現場の声を吸い上げるようお願いしたい。
- ・映画の上映に本の展示を合わせるなど、総合的な取組も必要ではないか。

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】①	図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用促進のために、広報媒体等を効果的に活用し、PRに努めます。 ・ホームページやメールマガジン等を活用し、図書館サービスについての情報発信に努めます。 ・図書館のサービスや催し物についての記者への情報提供を定期的に行い、図書館を利用したことのない人にも図書館の情報が届くようにします。 ・各図書館に広報担当者をおき、その情報を一元化することによって効果的な広報を行います。 ・図書館利用を普及するため、図書館見学会やマナーアップキャンペーン等を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
新規登録者数	43,000人	33,196人	c
貸出総数	10,915,070点	9,890,748点	b
来館者数	7,541,000人	6,955,758人	b
貸出利用人数	2,976,000人	2,744,894人	b
市民一人当たり貸出数	8.7点以上	7.8点	b
メールマガジン配信件数	9,910件	13,257件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「メールマガジン配信件数」は、目標値を上回る利用がありました。その一方で、「新規登録者数」、「貸出総数」、「来館者数」、「貸出利用人数」は、目標値を達成することができず、平成25年度実績と比較しても下回っています。なお、「市民一人当たり貸出数」は、平成26年度より採用した指標です。</p> <p>与野図書館耐震工事が10月1日から2月28日まで実施され、5か月間休館しており、「貸出総数」などに多少の影響があったと考えられます。</p> <p>各館でアンケート結果などの分析を行い、新規利用者の獲得など、新たな利用や貸出につなげていく必要があります。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】②	幅広く計画的な資料の収集・保存	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズに応えるため、効果的・計画的に資料を収集・保存し、幅広い蔵書を整備します。 ・（仮称）浦和美園図書館の開館に向けた蔵書を整備します。 ・寄贈資料や除籍資料を有効活用します。 ・電子書籍等の新しいメディアについて調査・研究の成果をまとめ、今後の方針を決定します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別 評価
資料回転率	3.01点	2.75点	b
雑誌タイトル数	920タイトル	858タイトル	b
新聞タイトル数	115タイトル	125タイトル	a
所蔵タイトル数（図書）	1,006,000タイトル	1,023,424タイトル	a
蔵書冊数（市民一人当たり）	2.89点	2.85点	b
寄贈資料受入点数	26,000点	22,473点	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「所蔵タイトル数（図書）」は、目標値を上回っており、寄贈資料も含め、幅広く図書を収集したと考えられます。しかし、貸出総数は減少したため、資料が平均何回貸し出されたかを示す「資料回転率」（貸出点数/所蔵点数）は、目標値を下回りました。</p> <p>「雑誌タイトル数」は、雑誌が休刊した場合、既に他の図書館で購入している雑誌を購入することが多く、タイトル数は増えない傾向にあります。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】③	地域の歴史と文化の保存	【総合評価】	C
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報拠点として行政資料・地域資料を積極的に収集します。また、地域の記録を残す活動を支援します。 ・デジタル化する地域資料等の選定や著作権者等との調整を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
地域・行政資料の蔵書数	132,000点	131,210点	b
地域資料のデジタル化の調査・研究成果の報告	実施	未実施	d

<p>【評価の説明】</p> <p>地域・行政資料の収集については、目標値に近い点数を収集しました。</p> <p>地域資料のデジタル化については、対象資料の著作権の所在や、刊行状況の調査（情報収集）、及び資料収集を行いました。調査報告にまとめることはできませんでした。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】④	ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページを、より見やすく使いやすくします。 ・情報収集の技術を高めるために、データベースの利用講習会等を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
ホームページアクセス数	5,126,000回	20,211,423回	a
インターネット延利用人数	148,000人	130,672人	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「ホームページアクセス数」は、目標値を大幅に上回る実績がありました。</p> <p>「インターネット延利用人数」は、平成23年度をピークに平成24年度以降減少が続いています。与野図書館耐震工事のための休館や、インターネットにアクセスできる機器の普及の影響が考えられます。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑤	文化事業の開催	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座・講演会・映画会・展示会等を開催し、市民の文化活動・読書活動を支援します。 ・ 文化事業開催時にアンケート等を実施し、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
講座等の実施回数	116回	115回	b
映画会開催回数	128回	82回	c
展示会の開催回数	16回	18回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>映画会については、平成25年度実績87回と比較して、一般向けの上映が4回増えたものの、児童向けの上映が9回減りました。このため、全体では目標値を大幅に下回る結果となりました。</p> <p>展示会については、さいたま市ゆかりの人物及びその作品の紹介や、市内で出土した遺物の展示など、さいたま市の他の部局との多様な連携事業によるものが増えた結果、目標値を上回りました。</p> <p>文化事業開催時にはアンケートを実施し、企画の参考にすることができました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑥	あらゆる世代に向けたサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。 ・テーマ展示を充実させ、読書の楽しみを広く伝えます。 ・児童・中高校生・社会人・高齢者等、それぞれの世代に向けた本の紹介資料を作成します。 ・乳幼児から高齢者まで、誰もが利用でき、交流の生まれる市民の広場となるよう努めます。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
テーマ資料展示の実施回数	720回	900回	a
各世代向けの本の紹介資料作成	40点	42点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「テーマ資料展示の実施回数」・「各世代向け本の紹介資料作成」は、いずれも目標値を上回りました。</p> <p>『子どもといっしょに読書タイムキャンペーン』として、全拠点館にて、乳児から小学生を持つ家族を対象にした講座を実施し、職員が講師となり本の楽しみ方を伝えることができました。</p> <p>中央図書館では、中学生高校生による知的書評合戦（ビブリオバトル）を開催し、様々な世代の方が観戦に訪れ、交流の機会を提供しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑦	レファレンスサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスサービス事例のデータベース化を進めていきます。 ・パスファインダーやテーマ別ブックリストを作成するとともに、ホームページに掲載します。 ・内部研修を実施し、また外部の専門的な職員研修に参加して調査技術の向上を図ります。 ・国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、高度な調査・相談にも対応します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
レファレンス受付件数	105,000件	113,450件	a
レファレンス事例の公開件数（年間）	169件	215件	a
パスファインダー（調べ方案内）作成数	5タイトル	10タイトル	a
職員レファレンス研修の開催回数	10回	11回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>資料の検索や特定の事実を調査するレファレンスについては、半数以上の館で受付件数が増加し、目標値を上回りました。</p> <p>「レファレンス事例の公開件数」については、事例登録のための研修を行った効果から目標値を大きく上回りました。</p> <p>パスファインダー作成研修を行い、地域やテーマに則したパスファインダーを作成しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑧	地域の課題解決	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画や産業等のそれぞれの分野について、地域特性により必要とされる資料を収集します。 ・市の行政機関に対して、業務に関する資料や情報を提供する行政支援サービスを行い、地域の課題解決を支援します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
行政支援サービスの実施	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>市の6つの課などから問い合わせを受け、事業に関連する資料を提供することができました。</p> <p>ただし、問い合わせを受けて、これに応える形の対応であり、今後、行政支援サービスの浸透を図る必要があります。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑨	生活支援サービスの展開	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <p>・ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、それぞれの分野の専門機関との連携・協力を図ります。</p>			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供への取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>ビジネス支援のため、ビジネスコーナーのある中央図書館・桜木図書館で相談会・セミナー・講座を開催しました。</p> <p>また、医療情報コーナーや子育て支援コーナーなどで、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供を行いました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑩	バリアフリーサービスの充実	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材の整備・充実に努めます。 ・大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用についての情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。 ・活字による読書に障害のある方のために、関係機関・団体と連携を図り、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読などを実施し、きめ細かい図書館サービスを提供します。 ・来館が困難な方への宅配サービスについて、広報活動を積極的に行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
音訳資料・点訳資料貸出数	11,000点	9,377点	b
対面朗読回数、時間数	270回 490時間	225回 419時間54分	b
宅配サービスの貸出数	164点	281点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「音訳資料・点訳資料貸出数」には、個人の利用だけでなく、他機関への貸出数も含まれていますが、目標値ならびに平成25年度の実績9,727点を下回りました。これには、サピエ（視覚障害者情報提供ネットワーク）、国立国会図書館から、音訳点訳資料を利用者自身が容易にダウンロードして利用することが、浸透してきたことも影響していると考えられます。</p> <p>「対面朗読回数、時間数」は、目標値を下回りましたが、平成25年度の実績224回396時間5分を上回っています。なお、平成26年度に、天候不順などにより利用者、音読者が安全に来館できない場合、事前に対面朗読を中止することを申し合わせました。「宅配サービスの貸出数」は、利用が定着したことにより、貸出点数が増加し、目標値を上回りました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑪	多文化サービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な言語や文化に対する相互理解を深めるために、外国語資料の収集に努めます。 ・ボランティアや関連機関と協働し、日本語以外を母語とする人たちにも、生活に役立つ情報を提供します。 ・ボランティアと協働し、多言語でのおはなし会を実施します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
外国語資料の受入点数	520点	748点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「外国語資料の受入点数」は、目標値を大きく上回りました。</p> <p>ボランティアと協働した多言語でのおはなし会は、中央図書館、大宮図書館、南浦和図書館の3館でのべ9回実施し、平成25年度の実績を上回りました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑫	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さいたま市子ども読書活動推進計画（改訂版）」に基づき、各図書館において、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を小学生3%以下、中学生6%以下にします。 ・おはなし会や本に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。 ・保護者や保育者・教職員等を対象に読み聞かせや本に関する講座・講演会を開催するとともに、「子どもといっしょに読書タイムキャンペーン」を実施し、家庭での読書の大切さを伝えます。 ・子ども向けの読書案内を定期的に作成し、子どもと本をつなぐ手助けをします。 ・学校図書館支援センターによる教科関連図書の収集・情報提供・貸出を充実させます。 ・学校図書館におけるレファレンスサービスに対して支援を行います。 ・保育園・学校等を対象に読み聞かせや図書館オリエンテーションを実施します。 ・「さいたま市子ども読書活動推進計画（改訂版）」の見直しについて検討します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
小学生の不読者の割合	3%以下	4.7%	c
中学生の不読者の割合	6%以下	4.8%	a
子ども向け行事開催数	1,235回	1,238回	a
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	6回	19回	a
子ども向けの資料案内の作成	20回	35回	a
学校訪問・招待の実施回数、参加人	143回 6,577人	138回 7,251人	a

<p>【評価の説明】</p> <p>不読者の割合は、平成17年度から毎年実施している、読書についてのアンケート調査で算出したものです。調査は、さいたま市立学校の小学校4年生から高等学校3年生を対象に、各学年8学級ずつを抽出して行っています。</p> <p>「小学生の不読者の割合」は目標値に届かなかったものの、「中学生の不読者の割合」、「子ども向け行事開催数」、「読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施」、「子ども向けの資料案内の作成」については、いずれも目標値を上回りました。</p> <p>学校訪問については、回数は減っていますが、参加人数では目標値を上回りました。このほか、保育園訪問・招待を71回実施しており、平成25年度の実施回数49回を大きく上回りました。</p> <p>また、『子どもといっしょに読書タイムキャンペーン』として、乳児から小学生を持つ家族を対象にした講座を11館で実施し、家庭での読み聞かせの大切さや本の楽しみ方を伝えることができました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑬	図書館評価と市民意識の反映	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の運営状況及びサービスについての評価を行い、その結果を市民に公表します。 ・図書館サービスの充実・向上を図るためアンケート方法について検討し、図書館の利用に関するアンケートを実施します。 ・図書館協議会を開催して、市民の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
図書館評価の実施と公表	実施	実施	a
アンケートによる満足度調査の実施と公表	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>図書館評価については、平成25年度事業を評価の対象とし、図書館協議会の意見を踏まえて報告書としてまとめ、公表しました。</p> <p>図書館来館者に行ったアンケート調査については、全24館で9月11日から21日までの10日間実施しました。1,442件の回答があり、調査結果は、いただいた意見への対応をまとめたものとともに1月6日から31日までの間、24館で館内に掲示したほか、ホームページに掲載し公表しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑭	市民との協働	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で活動するボランティアへの支援や、ボランティアと連携した事業活動により、市民との協働を積極的に進めます。 ・区民まつりをはじめ、地域で開催される催し物等に積極的に参加します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
ボランティアとの協働事業数、延実施回数	100事業 691回	104事業 661回	b

<p>【評価の説明】</p> <p>読み聞かせ、おはなし会、点訳・朗読など、各ボランティア団体と協働した事業を実施しており、協働事業数は目標値を上回りました。</p> <p>与野図書館の休館の影響などから、実施回数においては目標値を下回る結果となりました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑮	関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館や県内市町村図書館との連携を進め、相互貸借や地域資料等の分担収集・保存等を行います。 ・国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関との連携により、専門的調査の充実を図ります。 ・市の関連部局や他の教育・文化・福祉施設と連携した事業を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
相互貸借点数（県内・県外）	18,000点	17,922点	b
連携事業実施機関数、延実施回数	15機関 54回	23機関 78回	a
職場体験の受入件数	86件	92件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「相互貸借点数」は、ほぼ目標値を達成しました。貸出数については、他市町村からのインターネットでの受付が浸透してきたことと、借受数については、予約全体数の増加に比例して増えてきたためと考えられます。</p> <p>連携事業については、市民活動サポートセンターや埼玉県文化振興課、市立博物館など、多様な機関との連携事業を行ったため実績が伸び、目標値を達成しました。</p> <p>職場体験については中学校の未来くるワーク受入れのほか、高校生や教員の職業体験受入れにより目標値を達成しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑯	地域の特色を生かした運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー、鉄道、盆栽、人形等、地域の歴史・特色に関連した資料を活用し、図書の展示や紹介等の情報発信を行います。 ・地域に関係する団体・機関との連携・協働による事業を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
地域の特色に関連した資料を活用した情報発信	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>地域の特色に関連した資料について、与野図書館の『バラのまちだより』、大宮西部図書館の『Train Library』、北浦和図書館の『読むうなぎ』など、ブックリストを作成・配布して紹介しました。</p> <p>東浦和図書館では、浦和レッズとの連携により『浦和レッズ、浦和レッズレディース選手がすすめるこの1冊2014』と題した小冊子を作成・配布し、埼玉スタジアム2002での出張展示を行いました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑰	職員の資質・能力の向上	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成を図るため、研修計画を作成し実施します。 ・職員のスキルアップのため、内部研修を行うとともに、外部研修にも積極的に参加します。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
内部研修の実施回数（図書館で行われる研修全て・市主催の研修は外部とする）	63回	56回	b
外部研修の参加件数（図書館外の全て・市主催の研修を含む）	48件	44件	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「内部研修の実施回数」は、目標値を上回ることはできませんでした。しかし、中央図書館や各拠点館において、接遇や新規サービスである国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについての研修を行い、平成25年度の実績48回を上回っています。</p> <p>「外部研修の参加件数」は、埼玉県立図書館での図書館職員研修などに参加してきましたが、目標値ならびに平成25年度の実績49件に届きませんでした。</p> <p>なお、受講するだけでなく、埼玉県図書館協会の各サービス分野の専門委員会に専門委員を派遣し、研修の立案、研究を行いました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑱	施設・設備の充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設を計画的に修繕します。 ・「図書館施設リフレッシュ計画」の策定に向けた準備を行います。 ・与野図書館の耐震工事を行います。 ・（仮称）浦和美園図書館の開館に向けた準備を行います。 ・各図書館内を点検し、わかりやすい案内表示を作成する等施設のバリアフリー化に努めます。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進	実施	実施	a
（仮）浦和美園図書館の開館準備	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>トイレのバリアフリー化や空調機器の更新など、施設の改修を行いました。また、公共施設マネジメント計画アクションプランとの整合性を図りながら、既存施設を長期にわたって有効に活用する事を目的とした図書館施設リフレッシュ計画を平成27年度中に策定予定ですが、その策定準備を行いました。</p> <p>与野図書館については、10月1日から2月28日までの間休館し、鉄骨での補強や骨組みの強化など、耐震工事を実施しました。</p> <p>平成28年1月の美園図書館開館に向けた準備として、約3万2千点の資料購入、専任担当（2名）の配置、コンピュータシステムや条例関連の調整、委託契約や物品購入契約等の平成27年度予算要求などを行いました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑱	持続的で安定した図書館の運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスの向上を図るため、図書館専門部会を開催し、図書館サービスについて調査研究を行い、問題点や課題を整理し、計画的で円滑な運営を行います。 ・委託化した窓口等業務の評価・検証を行い、図書館サービスの充実と向上に努めます。 ・広告料収入等、新たな財源確保や経費節減の取組を行います。 ・図書館の管理運営について民間力活用の検討を行います。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
業務マニュアルの整備・見直し	実施	実施	a
図書館の管理運営における民間力活用の検討	実施	実施	a
新たな財源確保や経費削減の取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>図書館業務については、資料書誌作成マニュアル、訪問督促マニュアル、弁償処理マニュアル、予約マニュアルを整備・見直しました。</p> <p>図書館の管理運営に関して、『さいたま市図書館への指定管理者制度導入について』として平成25年に図書館協議会へ諮問し、平成26年11月に答申を受けました。また、平成26年度に実施された公開審議では、図書館への指定管理者制度の活用が対象事業として取り上げられました。</p> <p>「新たな財源確保や経費削減の取組」のうち、財源確保については、図書館内の空きスペースにパンフレット用ラックを設置した業者から使用料を徴収する取り組み（11館）や、広告付きマット（5館）、バナー広告募集を実施しました。経費削減については、雑誌スポンサー事業（4館）を実施しました。</p>

さいたま市図書館評価票（平成26年度）

【目標】⑳	危機管理体制の強化	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、市民の安全を守るための危機管理体制を強化します。 ・防災訓練や研修を通じて職員の危機管理意識を高めます。 			

指 標	平成26年度の目標値	平成26年度の実績	指標別評価
職員の危機管理意識を高める取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>拠点館では、館内の防災設備等を点検し、図書館危機管理対応マニュアルの内容に基づいて精査・検討を行いました。また、中央図書館と拠点館において各館年2回の防災訓練を実施するとともに、コンプライアンス遵守についても取り組み、職員の危機管理意識を高めることができました。</p>

参考資料（図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準）

（１）図書館法（昭和二十五年四月三十日法律第百十八号）

最終改正：平成二三年一二月一四日法律第一二二号

（運営の状況に関する評価等）

第七条の三 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（２）図書館の設置及び運営上の望ましい基準

（平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号）

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- 2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項

(目的)

第1条 この要項は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定に基づき実施する、さいたま市図書館（以下「図書館」という。）の運営状況に関する評価（以下「評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(評価の対象)

第2条 評価は、図書館の運営状況について、毎年度行うものとする。

(目標、指標及び目標値)

第3条 評価にあたっての目標は、別表第1に定めるとおりとする。

2 目標ごとの指標及び指標ごとの目標値は、図書館に設置される図書館評価専門部会が検討し、中央図書館長が定める。

(評価者)

第4条 評価にあたっては、図書館評価専門部会が、指標の達成状況を点検するとともに、さいたま市図書館協議会の意見を聴取した上で、評価案を作成し、中央図書館長が決定する。

(評価及び評価の段階)

第5条 目標ごとに各指標の達成状況について指標別評価を行い、その結果を評点として数値化し、評点の平均により当該目標の総合評価を行う。

2 評価の段階は、4段階とし、段階ごとの評価基準は、別表第2に定めるとおりとする。

(評価票)

第6条 評価の内容及び結果を記録する評価票の様式は、様式第1号に定めるとおりとする。

(評価結果の公表)

第7条 図書館は、評価の結果をホームページ等を活用して、市民に公表するものとする。

(評価結果の活用)

第8条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第9条 評価に関する庶務は、中央図書館資料サービス課において処理する。

(委任)

第10条 この要項に定めるもののほか、この要項の施行に関し必要な事項は、中央図書館長が別に定める。

附 則

この要項は、平成24年11月5日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

目標
図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化
幅広く計画的な資料の収集・保存
地域の歴史と文化の保存
ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実
文化事業の開催
あらゆる世代に向けたサービスの充実
レファレンスサービスの充実
地域の課題解決
生活支援サービスの展開
バリアフリーサービスの充実
多文化サービスの充実
子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携
図書館評価と市民意識の反映
市民との協働
関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携
地域の特色を生かした運営
職員の資質・能力の向上
施設・設備の充実
持続的で安定した図書館の運営
危機管理体制の強化

別表第2（第5条関係）

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の80%以上100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の50%以上80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の50%未満	0

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0以上2.7未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0以上2.0未満
D	目標を達成できなかった	1.0未満

さいたま市図書館評価票（平成 年度）

【目標】		【総合評価】	
【取組内容】			

指 標	平成 年度の目標値	平成 年度の実績	指標別 評価

【評価の説明】

さいたま市図書館ビジョン

さいたま市の図書館が、今後、取り組むべきサービスの目標や指針、管理運営などの基本方針を「さいたま市図書館ビジョン」として平成25年3月に策定しました。

図書館ビジョンでは、さいたま市の図書館を「地域の知の拠点」として位置づけ、その役割を果たしていくため、

知的好奇心に応える図書館

生きる力を支える図書館

市民とともに歩む図書館

誰もが安心して使える図書館

の4つの目標を掲げており、これらを実現していくための22の基本方針を定め、今後、総合振興計画の実施期間に合わせて、この基本方針を達成するための取組を平成25年度から平成32年度までの8年間実施してまいります。

■ さいたま市図書館ビジョン ■

1 知的好奇心に応える図書館

生涯学習と情報発信の拠点として市民ニーズに応える資料を収集・保存し、さらに情報化に対応したサービスを提供して市民の知的活動を支援します。

2 生きる力を支える図書館

誰もが利用しやすいサービスをすすめ、市民が自ら必要な知識・情報・スキルの獲得ができる環境を整備します。

3 市民とともに歩む図書館

図書館運営の現状と課題を市民と共有し、市内で活躍する豊富な人材と連携・協働することにより、地域の特色を生かした運営をします。

4 誰もが安心して使える図書館

さいたま市図書館ネットワークを活用したサービスを展開するとともに、市民の要求に的確に応えるため、図書館職員の資質・能力の向上を図ります。市民の誰もが安全安心に利用できるよう、施設・設備の充実に努めます。

さいたま市図書館ビジョンに基づく取組内容（平成26年度）

1 知的好奇心に応える図書館

(1) 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化
<ul style="list-style-type: none">● 図書館の利用促進のために、広報媒体等を効果的に活用し、PRに努めます。● ホームページやメールマガジン等を活用し、図書館サービスについての情報発信に努めます。● 図書館のサービスや催し物についての記者への情報提供を定期的に行い、図書館を利用したことのない人にも図書館の情報が届くようにします。● 各図書館に広報担当者をおき、その情報を一元化することによって効果的な広報を行います。● 図書館利用を普及するため、図書館見学会やマナーアップキャンペーン等を行います。
(2) 幅広く計画的な資料の収集・保存
<ul style="list-style-type: none">● 市民のニーズに応えるため、効果的・計画的に資料を収集・保存し、幅広い蔵書を整備します。● (仮称)浦和美園図書館の開館に向けた蔵書を整備します。● 寄贈資料や除籍資料を有効活用します。● 電子書籍等の新しいメディアについて調査・研究の成果をまとめ、今後の方針を決定します。
(3) 地域の歴史と文化の保存
<ul style="list-style-type: none">● 地域の情報拠点として行政資料・地域資料を積極的に収集します。また、地域の記録を残す活動を支援します。● デジタル化する地域資料等の選定や著作権者等との調整を行います。
(4) ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実
<ul style="list-style-type: none">● 図書館ホームページを、より見やすく使いやすくします。● 情報収集の技術を高めるために、データベースの利用講習会等を行います。
(5) 文化事業の開催
<ul style="list-style-type: none">● 講座・講演会・映画会・展示会等を開催し、市民の文化活動・読書活動を支援します。● 文化事業開催時にアンケート等を実施し、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。

2 生きる力を支える図書館

(6) あらゆる世代に向けたサービスの充実
<ul style="list-style-type: none">● 読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。● テーマ展示を充実させ、読書の楽しみを広く伝えます。● 児童・中高校生・社会人・高齢者等、それぞれの世代に向けた本の紹介資料を作成します。● 乳幼児から高齢者まで、誰もが利用でき、交流の生まれる市民の広場となるよう努めます。
(7) レファレンスサービスの充実
<ul style="list-style-type: none">● レファレンスサービス事例のデータベース化を進めていきます。● パスファインダーやテーマ別ブックリストを作成するとともに、ホームページに掲載します。● 内部研修を実施し、また外部の専門的な職員研修に参加して調査技術の向上を図ります。● 国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、高度な調査・相談にも対応します。
(8) 地域の課題解決
<ul style="list-style-type: none">● 都市計画や産業等のそれぞれの分野について、地域特性により必要とされる資料を収集します。● 市の行政機関に対して、業務に関する資料や情報を提供する行政支援サービスを行い、地域の課題解決を支援します。

(9)生活支援サービスの展開
<ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、それぞれの分野の専門機関との連携・協力を図ります。
(10)バリアフリーサービスの充実
<ul style="list-style-type: none"> ●図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材の整備・充実に努めます。 ●大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用についての情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。 ●活字による読書に障害のある方のために、関係機関・団体と連携を図り、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読などを実施し、きめ細かい図書館サービスを提供します。 ●来館が困難な方への宅配サービスについて、広報活動を積極的に行います。
(11)多文化サービスの充実
<ul style="list-style-type: none"> ●様々な言語や文化に対する相互理解を深めるために、外国語資料の収集に努めます。 ●ボランティアや関連機関と協働し、日本語以外を母語とする人たちにも、生活に役立つ情報を提供します。 ●ボランティアと協働し、多言語でのおはなし会を実施します。
(12)子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携
<ul style="list-style-type: none"> ●「さいたま市子ども読書活動推進計画(改訂版)」に基づき、各図書館において、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を小学生3%以下、中学生6%以下にします。 ●おはなし会や本に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。 ●保護者や保育者・教職員等を対象に読み聞かせや本に関する講座・講演会を開催するとともに、「子どもといっしょに読書タイム」キャンペーンを実施し、家庭での読書の大切さを伝えます。 ●子ども向けの読書案内を定期的に作成し、子どもと本をつなぐ手助けをします。 ●学校図書館支援センターによる教科関連図書の収集・情報提供・貸出を充実させます。 ●学校図書館におけるレファレンスサービスに対して支援を行います。 ●保育園・学校等を対象に読み聞かせや図書館オリエンテーションを実施します。 ●「さいたま市子ども読書活動推進計画(改訂版)」の見直しについて検討します。

3 市民とともに歩む図書館

(13)図書館評価と市民意識の反映
<ul style="list-style-type: none"> ●図書館の運営状況及びサービスについての評価を行い、その結果を市民に公表します。 ●図書館サービスの充実・向上を図るためアンケート方法について検討し、図書館の利用に関するアンケートを実施します。 ●図書館協議会を開催して、市民の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。
(14)市民との協働
<ul style="list-style-type: none"> ●図書館で活動するボランティアへの支援や、ボランティアと連携した事業活動により、市民との協働を積極的に進めます。 ●区民まつりをはじめ、地域で開催される催し物等に積極的に参加します。

(15) 関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携
<ul style="list-style-type: none"> ● 県立図書館や県内市町村図書館との連携を進め、相互貸借や地域資料等の分担収集・保存等を行います。 ● 国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関との連携により、専門的調査の充実を図ります。 ● 市の関連部局や他の教育・文化・福祉施設と連携した事業を行います。
(16) 地域の特色を生かした運営
<ul style="list-style-type: none"> ● サッカー、鉄道、盆栽、人形等、地域の歴史・特色に関連した資料を活用し、図書の展示や紹介等の情報発信を行います。 ● 地域に関係する団体・機関との連携・協働による事業を行います。

4 誰もが安心して使える図書館

(17) 親しみやすい図書館づくり
<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者への挨拶や、声かけで明るく親しみやすい窓口づくりに努めます。 ● わかりやすい言葉による丁寧な対応をします。
(18) 職員の資質・能力の向上
<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成を図るため、研修計画を作成し実施します。 ● 職員のスキルアップのため、内部研修を行うとともに、外部研修にも積極的に参加します。
(19) 専門的職員の配置
<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館サービスの向上を図るために、専門的職員の配置に努めます。 ● 司書は専門的職員として、資料等の提供及び紹介等、市民の高度で多様な要求に適切に応えるよう努めます。
(20) 施設・設備の充実
<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化した施設を計画的に修繕します。 ● 「図書館施設リフレッシュ計画」の策定に向けた準備を行います。 ● 与野図書館の耐震工事を行います。 ● (仮称)浦和美園図書館の開館に向けた準備を行います。 ● 各図書館内を点検し、わかりやすい案内表示を作成する等施設のバリアフリー化に努めます。
(21) 持続的で安定した図書館の運営
<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館サービスの向上を図るため、図書館専門部会を開催し、図書館サービスについて調査研究を行い、問題点や課題を整理し、計画的で円滑な運営を行います。 ● 委託化した窓口等業務の評価・検証を行い、図書館サービスの充実と向上に努めます。 ● 広告料収入等、新たな財源確保や経費節減の取組を行います。 ● 図書館の管理運営について民間力活用の検討を行います。
(22) 危機管理体制の強化
<ul style="list-style-type: none"> ● 「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、市民の安全を守るための危機管理体制を強化します。 ● 防災訓練や研修を通じて職員の危機管理意識を高めます。

平成27年度 さいたま市図書館評価 報告書

(平成26年度事業対象)

平成27年11月

さいたま市立中央図書館

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町11-1 (コムナーレ8階)

電話048-871-2100